



MONITOUCH

テクニカルインフォメーション

2013年8月23日

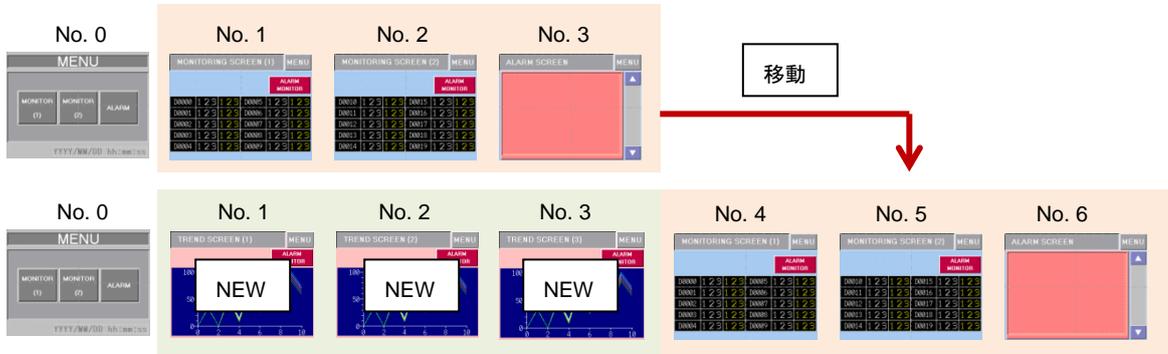
テーマ	V-SFT Ver. 5 のスクリーン移動簡単ガイド		
該当機種	V8、V7、V6、TELLUS3、TELLUS	No. TI-M-0065	1/4

1. 概要

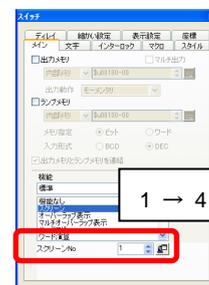
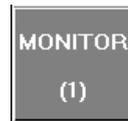
V-SFT Ver. 5 の画面一覧上でスクリーンの場所を移動すると、[機能：スクリーン] スイッチの切替先スクリーン No. も自動で変更することができます。既存の画面データにスクリーンを追加する等で、元々存在するスクリーンを移動する必要がある場合に便利です。

オーバーラップライブラリ、スクリーンライブラリについても同様に自動変更することができます。

例) 既存の画面データ（以下のデータ）に新スクリーン3枚を追加する。



スクリーンを移動すると、スクリーン切替スイッチの切替先スクリーン No. の変更が必要になる。全部のスイッチの設定を手動で変更するのは大変…



画面一覧で「スクリーン移動時の対象自動変更機能」を使用して移動すると…

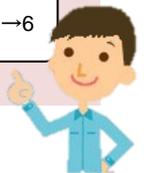


[機能：スクリーン] スイッチの切替先スクリーン No. が自動で変更されます。



スクリーン No. 1 → 4

スクリーン No. 3 → 6



2. 対応エディタ

V-SFT Ver. 5.4.10.0 以降

3. 対応機能

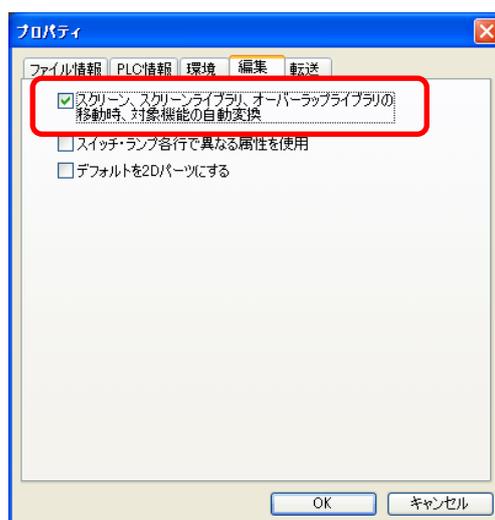
画面一覧	自動変更の対象
スクリーン	[機能：スクリーン] スイッチの切替先スクリーン No.
	[機能：ワード演算] スイッチの切替先スクリーン No.
	[機能：書込] スイッチの切替先スクリーン No.
スクリーンライブラリ	配置したスクリーンライブラリのスクリーンライブラリ No. 
オーバーラップライブラリ	コールオーバーラップのオーバーラップライブラリ No.
	[機能：マルチオーバーラップ表示] スイッチのオーバーラップライブラリ No.
	入力キー付きの数値表示/文字列表示のオーバーラップライブラリ No.

※ マクロ（「SYS (SET_SCRN)」、「SYS (SET_MOVLPL)」など）を使用している場合は、自動変更できません。

4. 必要な設定

[ファイル]→[プロパティ]→[編集]→

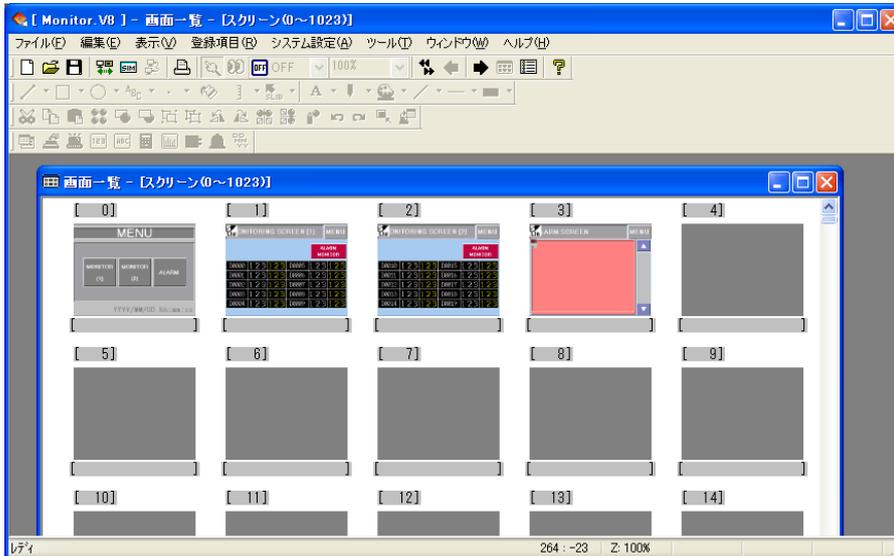
「スクリーン、スクリーンライブラリ、オーバーラップライブラリの移動時、対象機能の自動変換」にチェックを入れます。



5. 移動手順

スクリーン No. 1 ~ 3 を 4 ~ 6 に移動する手順を例に説明します。

1. [表示] → [画面一覧] を開きます。



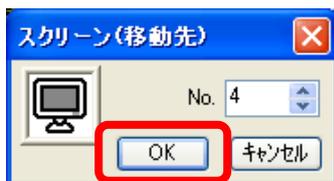
2. 移動するスクリーンの先頭 No. 1 をクリックし、[Shift] キーを押しながら最終 No. 3 をクリックします。スクリーンが No. 1、2、3 が複数選択されます。



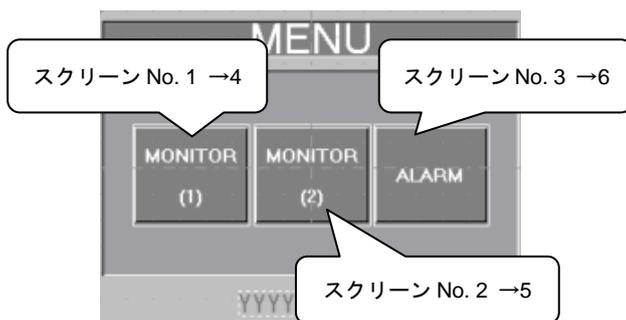
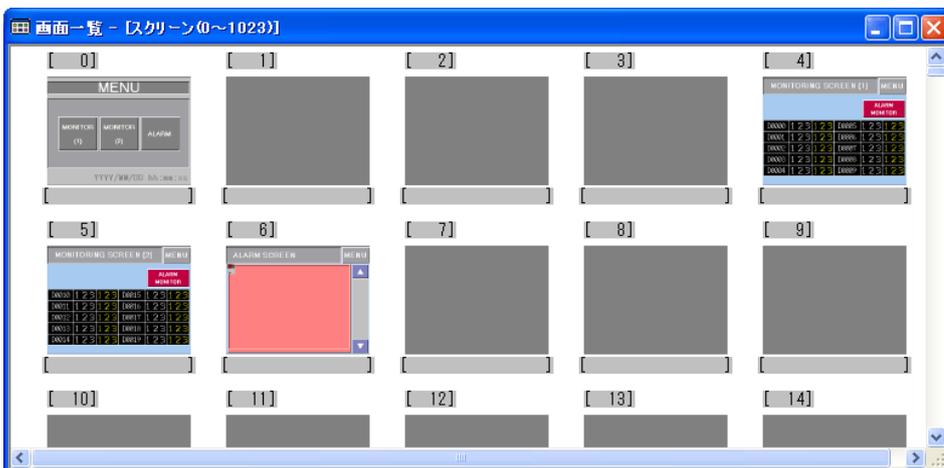
3. 右クリックメニューの中から「移動」を選択します。「スクリーン (移動先)」ダイアログが表示されます。



4. 移動先 No. 4 を指定して [OK] をクリックします。



5. スクリーンが移動し、ファイル内の [機能 : スクリーン] スイッチの切替先スクリーン No. も自動で変更されます。



切替先のスクリーン No. が自動で変更されます。

例) MONITOR(1)スイッチ スクリーン No. 「1」 → 「4」

